

他人への理解

京都市立中京中学校 2年 野田 彩乃

「あなたは理解しようとしていますか。」私はこちら問いたい。私たちは「日本人」と「外国人」という枠を無意識につくってとらわれているように思える。でも、この枠は自分の意思で抜け出せる。そんな大切なことを一人の友達から学んだ。

今年五月、私のクラスにネパールからの転校生が来た。転校生で外国人というのは目をひく。だから、初めの三日はたくさんの方が話しかけていた。しかしその後、話しかける人は仲良くするのを諦めたのか減ってしまった。私も実際に話してみても英語が苦手なうえ、何を考えているのか分からなかったから半分諦めた。今思えば自分が分かるうとしなかった。現在言語の壁は低くなっている。小学校から英語教育が始まり、インターネットを使って翻訳できるようになった。だから、この時話し続けるべきだったが私にはできなかった。

それから一ヶ月後転機が訪れた。席が隣になったのだ。それからは、毎日話した。前回話さなくて後悔したからだ。その中で様々な話を聞いた。モモという餃子のような料理が好きだと聞いた。バスケットボールが好きで水泳が苦手だと聞いた。日本語を一生懸命勉強していると聞いた。この情報を得るだけで一ヶ月かかった。話が續かないことはしょっちゅうあった。でも大切なのはどれだけ知っているかじゃない。どう向き合うかだ。そう思った私は外国人の転校生を理解するために努力した。結果、一緒に教室を移動するくらいの友達になった。二人

きりの時はまだ会話が續かないことも多い。でも、日本という人種という枠を超えて友達になれた。

人種という枠を超えるのは難しそうに見えるが心構え一つで超えられる。人の偏見や決めつけがその線引きを濃くする。人種という広い枠で見るのではなく一人一人を見る事が大切なのだ。人種という枠がなくなれば、今より更に生きやすくなるうえ、協力もしやすくなる。協力の輪が広がれば不幸だと思う人が減るはずだ。きっかけはなんでもいい。大事なのはそこからどう動くかだ。そこでもう一度問いかけたい。「あなたは理解しようとしていますか。」